第３課　聖霊の神性

【暗唱聖句】

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」第二コリント13:13

【今週のテーマ】

聖霊が神様であることを、聖霊に属する神性（神の御性質）を学ぶことによって理解します。

【日曜日　聖霊と神】

「ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、 妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。 すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。 売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた」 使徒言行録5：１～5

アナニアとサッピラは土地を売ってそのお金を献金したのですが、その代金をごまかし、一部なのに全部を捧げたかのように言いました。ところが、それが恐ろしい悲劇を生む結果となりました。その原因は、彼らのごまかしが、人をごまかしたかのようで、実は神様を欺く行為に他ならなかったからです。また、ここで注目すべきは、ペテロはアナニアに対して最後に「あなたは神様を欺いたのだ」と言っていますが、その前に「サタンに心を奪われ、聖霊を欺いて」と言っていることです。つまり、聖霊と父なる神を同列に置いていることです。聖霊は神様の単なる力や影響力ではなく、神様と同じであることをペテロは理解していました。

「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた」使徒言行録4：32

当時の教会は信者さんたちが思いを一つにして、持ち物を自分のものだと言うものもなく共有して生活していました。これは聖霊の働きでした。聖霊が初代教会に強く働いていました。そのような状況の中でアナニアとサッピラはこのような行為を行ったわけです。当然、聖霊は彼らにも働いており、何をすべきか、何をしてはならないのかを教えていました。その聖霊の声を振りほどいて、彼らは自分たちの思いを優先し、教員の人たちに良い顔を見せながら、彼らをごまかそうとしたのです。このような行為は、聖霊の働きを妨げるものであり、初代教会の発展にとって大きなマイナスになることだったので、神様は彼らの命を取られるという非常にショッキングな方法を取られました。人々は大いに恐れましたが、わたしたちも神様に対してもっと畏れの念をいだく必要があることを教えています。

【月曜日　聖霊と神の属性】

聖書の中には、聖霊には神様の属性があることが記されています。

【全知】

「わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます。人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません」コリントの信徒への手紙2：10～11

人間のことを知るのは人間（の霊）だけです。犬やねこはどれほど人間と仲良くなれても、人間のことはわかりません。それはわたしたちが人間だからです。同じように、神様のことを知るのは神様だけです。そして、そのことを神の霊（聖霊）が神様を知っていると表現しています。しかも、表面的に知っているのではなく、内面まで、神の深みまで知っています。それは聖霊が神のうちにおられるからです。

参照

「主の霊を測りうる者があろうか。主の企てを知らされる者があろうか。主に助言し、理解させ、裁きの道を教え、知識を与え、英知の道を知らせうる者があろうか」」イザヤ書40：13、14

神様をすべて理解することはできませんが、神様の深みまで知っている聖霊が、わたしたちの内に住まわれるのですから、わたしたちも神様のことを僅かもしれませんが知ることができます。これは本当に驚くべきことです。

【偏在】

「どこに行けば、あなたの霊から離れることができよう。どこに逃れれば、御顔を避けることができよう」詩編139：7

神様の属性の一つに遍在性があります。神様は同時に、どこにでも存在することができるということです。聖霊も同じ遍在性があることがわかります。

【永遠】

「まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか」ヘブライ人への手紙9：14

参照

「唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住まわれる方、だれ一人見たことがなく、見ることのできない方です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメン。」テモテへの手紙一6章：16

＊「永遠の霊」と聖霊は表現されており、「唯一の不死」なる神と同じ、永遠なる存在です。

【全能】

「天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」ルカによる福音書1：35

＊「聖霊」と「いと高き方」が同義的構造になっており、その力によって御子が受胎した。

「また、しるしや奇跡の力、神の霊の力によって働かれました。こうしてわたしは、エルサレムからイリリコン州まで巡って、キリストの福音をあまねく宣べ伝えました」ローマの信徒への手紙15：19

＊しるしや奇跡の力と神の霊の力が同列に描写されている。

参照

「あなたは御自分の息を送って彼らを創造し、地の面を新たにされる」詩編104：30

【火曜日　聖霊の示唆】

聖書には聖霊と神への言及を置き換えることができる箇所がいくつもあります。

「しかし、彼らは背き、主の聖なる霊を苦しめた。主はひるがえって敵となり、戦いを挑まれた」イザヤ書63：10→平行記事→「主はモーセに言われた。「この民は、いつまでわたしを侮るのか。彼らの間で行ったすべてのしるしを無視し、いつまでわたしを信じないのか」民数記14：11

＊「主の霊を苦しめる」＝「いつまでわたしを侮るのか」

「谷間に下りて行く家畜のように主の霊は彼らを憩わせられた。このようにあなたは御自分の民を導き輝く名声を得られた」

＊主の霊が彼らを憩わせられた…このようにあなたは～と主の霊があなた「神」に置き換え荒れている。

「主の霊はわたしのうちに語り、主の言葉はわたしの舌の上にある」サムエル記下 23：2

「イスラエルの神は語り、イスラエルの岩はわたしに告げられる。」サムエル記下23：3

＊主の「霊は語り」が「神は語り」に置き換えられている。

16:コリントの信徒への手紙一3：16

「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか」第一コリント3：16

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです」第一コリント6：19

＊「神の神殿」と「聖霊の宿る神殿」と表現を使い分け、聖霊が神であることを指摘しています。

コリントの信徒への手紙一 12章 11節

「これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです」第一コリント12：11

「神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。」第一コリント12：28

＊聖霊の働きを、神は、と言い換えている。

【水曜日　聖霊による神の働き】

聖霊は神にしかできないある種の働きを行っています。

・創造の働き

聖霊は天地創造のはじめからそこに存在し、創造の働きを行いましたが、人間の再創造、新しく生まれ変わる働きも起こっています。

「神はわたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗い（バプテスマ）を通して実現したのです」テスト3:5

・命をもたらす働き

「キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです」ローマ8:2

命をもたらすように、聖霊はわたしたちを聖化し、品性を作り変え、キリストに忠実でいられるように助けてくれます。これは霊の法則と呼ばれていることから、必ずそのようになります。

・主のみ旨を示す

「そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか～」」イザヤ6:8

「彼らが互いに意見が一致しないまま、立ち去ろうとしたとき、パウロはひと言次のように言った。「聖霊は、預言者イザヤを通して、実に正しくあなたがたの先祖に語られました～」使徒28:25、26

＊主が語られたと旧約聖書に出てきた箇所を、パウロは聖霊が語られたのだと言い換え、聖霊が神のみ旨を伝える働きをしていることを示しています。

・聖書を記す働き

「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」第二テモテ3:16

【木曜日　聖霊の神性の重要性】

もし、聖霊が神様でないとしたら、これらの神様にしかできない働きはできないことになります。その多くはわたしたちの生活に直結していますからその影響は深刻なことになったことでしょう。しかし、聖霊は神であり、そのことをわたしたちは認めることができることは幸いです。聖霊は自己主張されませんが、わたしたちは聖霊をもう少し意識して、深く交わっていくように努めることは聖書的です。

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」第二コリント13:13

この聖句は祈りの言葉としてもよく用いられますが、三位一体の神様の特徴がよくあらわされています。すなわち、キリストは恵みを賜る方、（父なる）神様は愛の方、そして聖霊は交わる方であるということ。毎日の生活の中で直接交わってくださる方こそ聖霊であることがわかります。そしてその交わりの中でキリストの恵みと神の愛がわかるのです。